

## 台高縦走 ～日帰りでつなぐ～ ③

泉州勤労者山岳会 脇阪

台高山脈は、長大な支脈をいくつかもつことでも知られている。支脈上の山々もそれぞれ魅力があり、それに惹かれていろいろなルートを歩いたが、今回は台高北部の高見山から東にのびる長大な支脈上の山を歩いた記録を紹介させていただく。この支脈は高見山地とも呼ばれており、三峰山を経て局ヶ岳あたりまで続いている。台高とは区別される方もおられるだろうが、尾根はしっかりつながっているので、台高の仲間として扱いたい。

この支脈は、次の2回の日帰り山行に分けて歩いた。

◇高見山～三峰山（みうねやま）      ◇局ヶ岳（つぼねがたけ）～三峰山

どちらも車を2台利用して、下山口にデポした車で登山口に戻るというスタイルをとった。歩いた感想としては、後者（局ヶ岳～三峰山）の方が自然林は多く、印象がよかったので、後者の方を中心に紹介させていただくことにする。

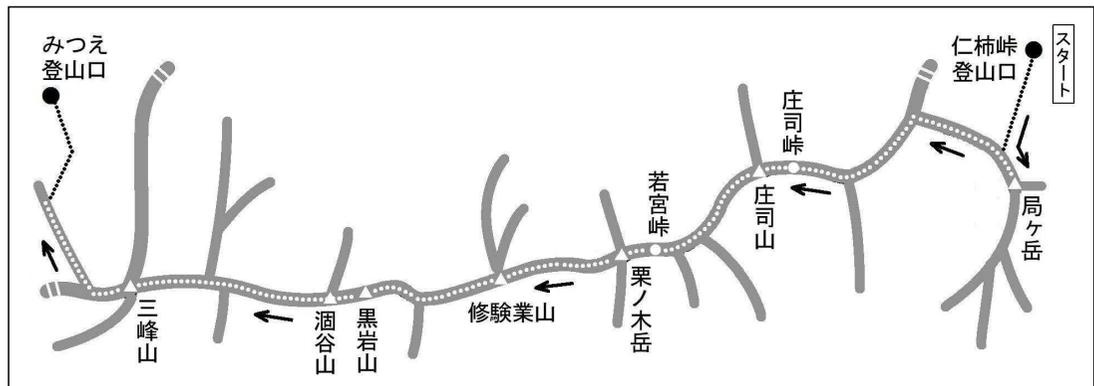
### 局ヶ岳～三峰山

この縦走コースは、他の山の会の記録などを見ると、2～3回に分けて歩いておられるようだが、車を2台使い、1回で全コースを歩こうと決め、計画案を作成した。

◆山行日 2013年4月13日      参加者：3名（太田、徳留、脇阪）

車を2台使うときは、1台をデポするためにかかる時間をできるだけ少なくする必要がある。局から三峰への縦走では、北側の国道368号線か、南側の国道166号線のどちらかを走ることになる。2011年の豪雨により、三峰山の南側の林道は通行止めが続いていたため、北側の国道368号線を利用することにした。

現在は、桑原、福本の両方から林道を走ってゆりわれ登山口まで入れる。



車1台をみつえ登山口（大タイ林道入口）にデポし、国道を東に走り、局ヶ岳の仁柿峠登山口まで入る。

登山道の脇には仁柿小学校の児童が作った丁標識が続き、ほほえましい。「一丁」か

ら始まり、局ヶ岳頂上は「十八丁」となる。

尾根まで上がると、まず局ヶ岳を往復する。局ヶ岳頂上からは三峰山へ続く山並みを見渡すことができ、かなり遠くに見える三峰山の姿に気が引き締まる。西への縦走が始まると、カタクリの花がここかしこに咲いており、踏まないように常に気をつけて歩いた。尾根筋を外さないことと、コンパスで自分の進行方向を確認していれば、枝尾根に入り込むことはないだろう。

尾根道はアップダウンが多い。これでもかというぐらい次から次へと連続する。自然と口数も少なくなり、黙々と歩き続ける。

若宮峠で少し休憩後、ピラミッド形をした栗ノ木岳へのほぼ一直線の登りにかかる。標高差で200mほどなのだが、アップダウンの連続で疲れがたまっている体には、この急

坂がきつい。唯一の救いは、振り返ると端正な形をした局ヶ岳の美しい姿が見えること。ようやく頂上に着くも、狭くて休憩する気にはなれず、すぐ頂上を後にした。

縦走路周辺に自然林が多いことも、このルートの特徴だろう。植林帯とちがいで、そのおだやかな様子は歩いていても爽快そのもの。昼食も自然林に囲まれた中でゆっくり時間をとったほどだ。

ゆったりとした修験業山を経て、黒岩山を過ぎると、ようやくアップダウンは穏やかになってくる。すると少し気が緩んだのか、三峰山までやけに長く感じた。

途中誰にも出会うことなく、局ヶ岳からの長い縦走を終えると、歩き慣れたみつえ登山口までの道を、充実感に浸りながら一気に下った。

### 高見山～三峰山

大峠まで車で入りたかったが、当時は林道が奈良側、三重側ともに通行止めのため、杉谷からスタート。所要時間は以下の通り。

杉谷登山口 →→→ 高見山 →→→ 三峰山 →→→ みつえ登山口  
 約1時間40分 約5時間10分 約1時間05分

